

【目次】

I. 基本方針・設計コンセプト.	01
II. 建築計画概要.	02
III. 配置計画.	03
IV. 外構計画.	04
V. 平面計画.	05
VI. 立面計画.	08
VII. 環境配慮・防災計画.	08
VIII. 設備計画.	09
IX. 工事費概算.	09
X. 全体事業スケジュール.	09
XI. 工事工程表(案).	09

I. 基本方針・設計コンセプト

整備方針（基本計画）

基本計画では、人びとが集い、暮らし、交流する、賑わいのあるまちづくりの拠点の実現のため、以下の5つの整備方針を定めています。

①交流の拠点

子ども、学生、お年寄りなど幅広い世代、様々な立場の人が集い、交流し、それぞれの時間を過ごすことのできる場

②集客の拠点

香取市の顔として、市内外へ情報発信するとともに、市内外から人を集め、市内各地域への起点となり、回遊させる場

③魅力創造の拠点

香取市の新たな魅力や価値観を創造するとともに、中心市街地の賑わい創出をリードする場

④生活支援の拠点

子育て世代や高齢者など、まちなかで生活する多様な人々に役立ち、商工業者の営みやコミュニティ活動をサポートする場

⑤学び・育成の拠点

香取市の文化、歴史を学ぶことができ、人が成長する豊かな地域資源を活用し、地場産業を育成する場

基本方針（基本設計）

整備方針を基に、以下を基本設計における基本方針と定めます。

■香取市の新たな魅力創出

最新の複合公共施設に、香取市独自の歴史と文化に培われた“粋”な雰囲気を実現し、まちの新たな魅力を創出します。



佐原の町並み①



佐原の町並み②

設計コンセプト

人と人が交わり、歴史と文化が薫る、「粋」な場づくり～粋なかとり～

佐原の町並みをイメージさせる佇まいに、人々の多様な活動が生まれる、最新の機能を内包した香取市ならではの「粋」な場づくりを目指します。

～粋なかとり～を具現化する3つの設計コンセプト

■複合化のメリットを最大限活かした場づくり～交流の拠点

- ・明快な施設構成と、誰もが気軽に訪れ、新たな活動に参加できる、使いやすく開かれた環境を整備し、交流を促します。
- ・諸室の“見える化”と隣接する共用空間の充実によって、フレキシブルな諸室利用がもたらす多様な市民活動の創出を図ります。
- ・各施設が必要とする機能の共用化により、コンパクトで合理的な施設計画とします。

■新たな賑わいと魅力を発信する場づくり～集客・魅力創造の拠点

- ・駅から商店街、そして佐原の町並みへの動線上に、観光情報発信の場や多様なイベント活動の場を整備し、賑わいと魅力を発信します。
- ・香取市の魅力に触れられる環境として、物販スペース等を設けた観光情報発信施設と、歴史と文化の情報を得られる図書館を低層階に配置します。
- ・観光の玄関口として、佐原の大祭等のイベントにも対応できるスペースづくりとし、周辺と調和した都市景観を形成します。

■コミュニティ活動・多世代交流の促進を図る場づくり～生活支援・学び・育成の拠点

- ・多様なイベント活動の場や図書館に加え、子育て世代支援施設も低層階に配置します。親子連れから学生・高齢者まで、多世代のコミュニティ活動・交流が生まれる場をつくります。
- ・施設毎にフリースペースを整備することにより、複合公共施設の諸室機能を補完し、コミュニティ活動を促す新たな公共空間をつくります。
- ・公民館機能・社会福祉関連施設・市民活動支援センターの事務室を一体的に配置することで、コミュニティ活動等に対して連携した支援が可能となります。

3つの設計コンセプトを支える最新の技術

- ・明快な架構形式とし、安心安全な構造計画とします。
- ・わかりやすい避難・誘導計画に加え、十分な地震対策を施し、災害に強い施設づくりを行います。
- ・環境負荷低減や再生可能エネルギーの利用、最新の環境技術による一次エネルギー消費の削減等、環境に配慮した計画とします。
- ・小規模自主避難場所として、48時間稼働の自家発電設備等、十分な防災機能を備えた施設計画とします。
- ・ユニバーサルデザイン・バリアフリー計画に基づき、すべての人々に配慮した施設計画とします。



北西側外観イメージ

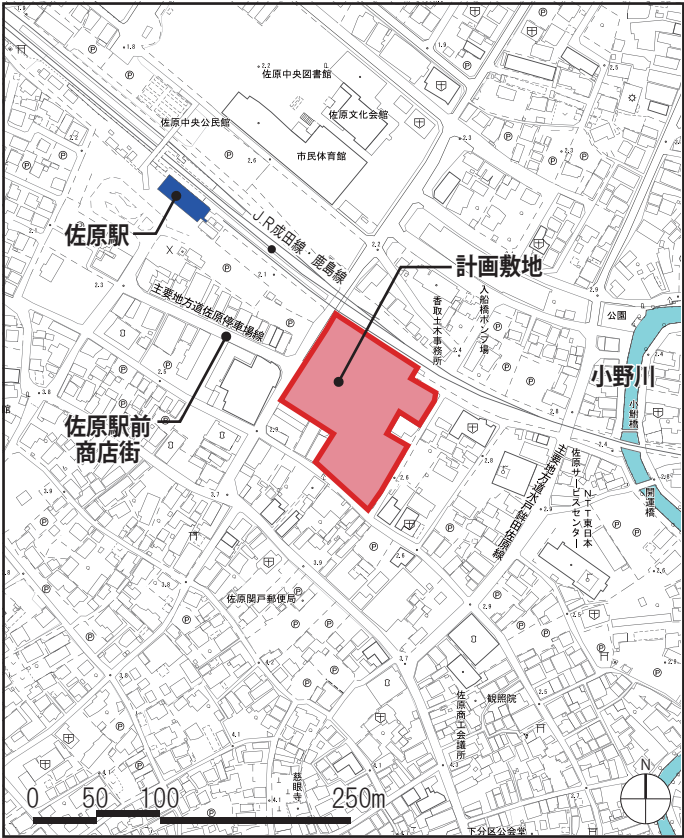


(仮称)佐原通りイメージ

Ⅱ. 建築計画概要

1. 立地条件

- ・計画敷地は、香取市中心市街地の「佐原駅周辺地区」に位置しており、地区内にはＪＲ佐原駅や佐原駅前商店街が立地しています。一方、中心市街地の南側に位置する「佐原重要伝統的建造物群保存地区」には歴史的町並みや各種観光施設が立地しており、香取市を代表する観光地として賑わいを見せています。
- ・計画敷地は、旧清見屋（百貨店）の跡地であり、平成16年の閉店以降、佐原駅周辺地区で最大規模の未利用地となっています。また、駅周辺に立地する佐原駅前商店街の活性化が課題となっています。
- ・計画敷地は、ハザードマップによると2～5mの浸水区域となっています。利根川氾濫時はこれらの浸水が想定されていますが、現在では治水対策が行われ、昭和25年以降は大きな洪水被害はありません。また、計画敷地周辺は地盤が悪く、東日本大震災では液状化に見舞われていることから、地盤調査を行い、適切な基礎工法の選定や液状化対策の必要性を検討します。



2. 敷地条件

- | | | |
|--------------|------------------------------|--|
| (1) 地名地番： | 千葉県香取市佐原字竹之下イ 134 番 3 ほか | (8) 接道：北側：なし |
| (2) 敷地面積： | 9,657.72 ㎡（市道 1142 号線の一部を含む） | 南側：市道 1010 号線（幅員：5m） |
| (3) 用途地域： | 商業地域 | 東側：市道 1021 号線（幅員：3.8m） |
| (4) 建蔽率・容積率： | 80％・400％ | 西側：県道 36 号線（幅員：8.5m）・市道 1142 号線（幅員：8.2m） |
| (5) 防火地域： | 準防火地域 | |
| (6) 地域地区： | なし | |
| (7) 日影規制： | なし | |

3. 計画建物の概要

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|------------------|
| (1) 用途（建築基準法） | ・特殊建築物（別表第 1（3） 図書館）：図書館 | |
| | ・その他：観光情報発信施設・公民館機能 | |
| | ・子育て世代支援施設・社会福祉関連施設・市民活動支援センター | |
| (2) 構造規模：鉄骨造一部鉄筋コンクリート造 4 階建て | | |
| (3) 建物高さ：22.90m | | |
| (4) 建築面積：2,261 ㎡ | | |
| (5) 延床面積：6,574 ㎡ | | |
| (6) 用途別床面積 | | |
| | ・観光情報発信施設：178 ㎡ | ・社会福祉関連施設：263 ㎡ |
| | ・公民館機能：1,843 ㎡ | ・市民活動支援センター：67 ㎡ |
| | ・子育て世代支援施設：689 ㎡ | ・その他共用部：2,062 ㎡ |
| | ・図書館：1,472 ㎡ | |

4. 構造計画概要

（1）基本方針

- ・不特定多数の市民が利用する公共施設として、安全性、耐久性、経済性に十分配慮した構造計画を行います。
- ・耐震性能は「官庁施設の総合耐震計画基準」に準拠し、耐震安全性の分類をⅡ類（重要度係数=1.25）とします。
- ・大地震後においても構造体の補修を行なうことなく使用し続けることができる耐震性能を目標とし、人命の安全確保に加えて十分な建物機能の確保を図ります。

（2）架構計画

- ・構造種別は最大で 17.4m の大スパン架構に対応でき、かつ建物重量を軽量化できる鉄骨造とします。
- ・架構形式は、複合用途の公共施設として平面計画の自由度が高くなる「純ラーメン構造」を採用します。
- ・床構造には、剛性が大きく振動・騒音に対する性能に優れたコンクリートスラブ（厚 15cm 以上）を採用します。

（3）基礎計画

- ・基礎形式は、建物規模と地盤状況から杭基礎を採用します。
- ・杭種別は既製コンクリート杭、杭工法はプレボーリング拡大根固め工法（大臣認定工法）とします。
- ・杭の支持層は、地表面からの深さ 12m～29m 付近に分布する N 値 40 程度の沖積細砂層とします。
- ・計画敷地にて地震時に「液状化現象」が生じる可能性については慎重に判断し、必要に応じて「表の庭（多目的広場）」を中心に地盤改良等の対策を施します。

（4）残存地下構造物について

- ・現状は既存建物の上屋は全て解体されており、地下構造物についても地表面から 1.5m の範囲までは解体されていますが、1.5m 以深にある構造物及び既存建物の杭については残存しています。
- ・建物計画範囲内の既存杭は残置した場合に「地盤の安定性に寄与する」と判断されるため、新設する杭と干渉する杭を除き残置とし、また隣地境界付近の残存基礎も隣地への影響を考慮して残置する方針とします。
- ・建物計画範囲外の既存杭及びその他の地下構造物は、不要物として解体・撤去する方針とします。

Ⅲ. 配置計画

1. 商店街・観光地へと賑わいをつなぎ、
まち全体の回遊性を向上させる配置計画

・商店街の正面に「表の庭（多目的広場）」を介して複合公共施設を配置します。複合公共施設の中央に商店街と連続する賑わい空間「（仮称）佐原通り」を設け、その突き当たりに車寄せ・観光案内機能を併せ持つ「中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）」、佐原の町並みへと観光客をいざなう回遊ルート「緑の小道」を設けます。この複合公共施設が商店街、小野川周辺へと人の流れをつくりだす拠点となります。

2. 周辺環境に配慮したコンパクトな施設配置

・複合公共施設は4階建てのシンプルな形状とし、敷地中央に配置します。商店街側に「表の庭（多目的広場）」、南側に安全な「こどもひろば」、東側に車寄せ（中の庭）・駐車場を集約した明快なゾーニングとします。住宅地・JR等、周辺環境との調和を図るとともに、商店街から利用者を迎え入れるシンボリックな配置計画とします。

3. 駅前拠点施設としての利用しやすいアプローチ計画

駐車場からのアクセスは歩車分離をした安全なアプローチ計画とします。

① 駅から利用しやすいアクセスの確保

・駅から徒歩のアクセスに対応する「表の庭（多目的広場）」・西玄関を配置します。西玄関へのアプローチは歩行者専用とし、安全性を確保します。

② 日常利用の多い車利用者への配慮

・車利用者に配慮し、東側駐車場からのアクセスの確保と車寄せ機能を持つ「中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）」・東玄関を配置します。

③ 駅から佐原の町並みへとつなぐ計画～観光客動線への配慮

・1階「（仮称）佐原通り」を抜けた先に佐原の町並みへと観光客を誘導する歩行者専用の通路「緑の小道」を設け、歩車分離に配慮した計画とします。

4. 効率良く利用しやすい駐車場計画

・駐車場は利便性に配慮し、北・東側に集約して155台配置します。基本計画で想定していた駐車台数180台の確保が困難なことから、今後、立体駐車場の導入を検討します。

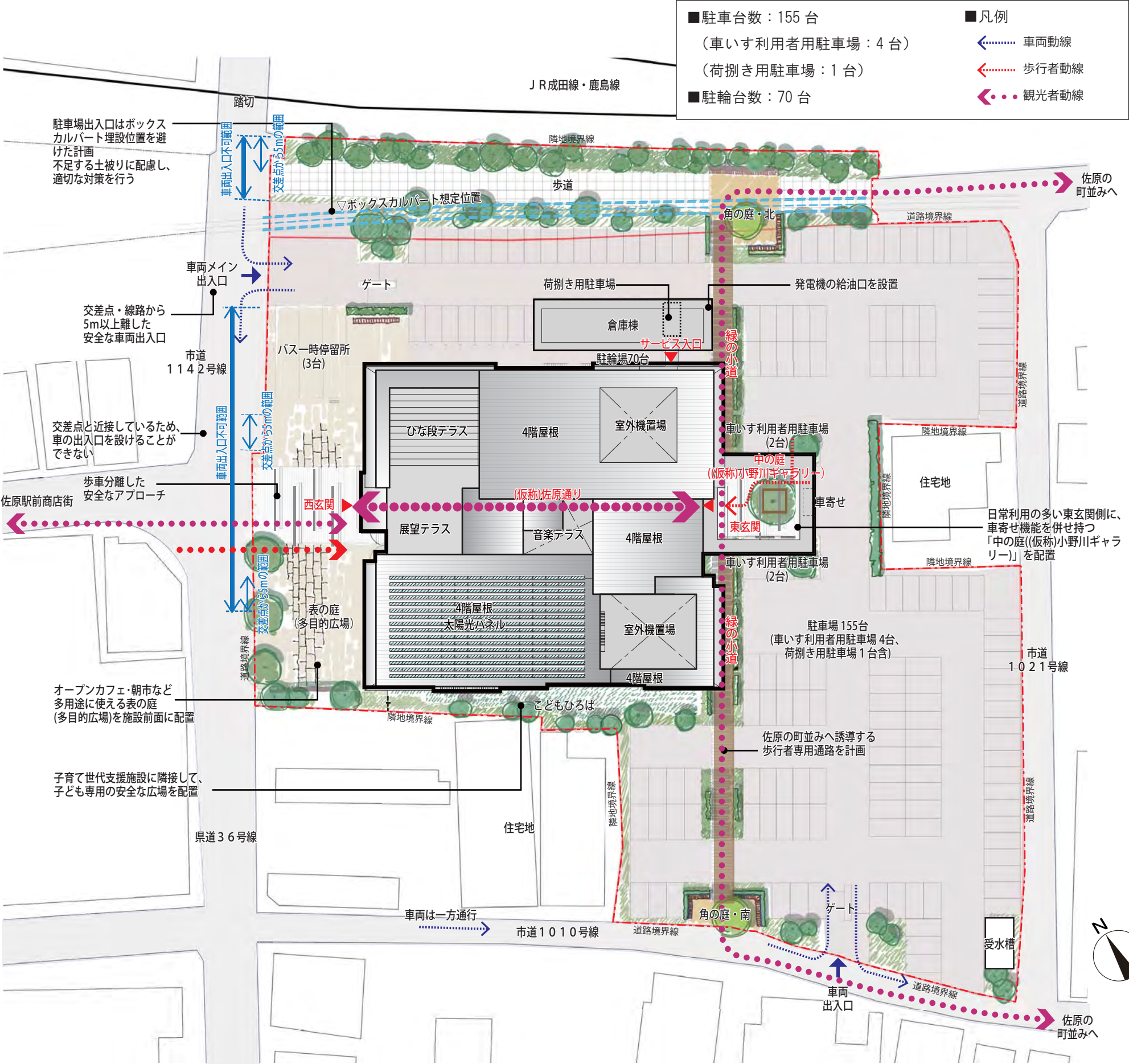
・車両出入口は安全性に配慮し、交差点から5m以上離隔を確保した上で最も安全な北西側、及び南側に設けます。

・日常利用の多い車利用者とバリアフリーに配慮し、駐車場側の東玄関に近接して車いす利用者用駐車場・車寄せを設けます。

・北西側駐車場ゲート前に観光バスの一時停留所を設け、観光客が施設に立ち寄りやすい計画とします。

・公用車駐車スペースは敷地外にて対応します。

・観光客の安全性に配慮し、今後、南側道路（市道1010号線）幅員の拡幅を検討します。

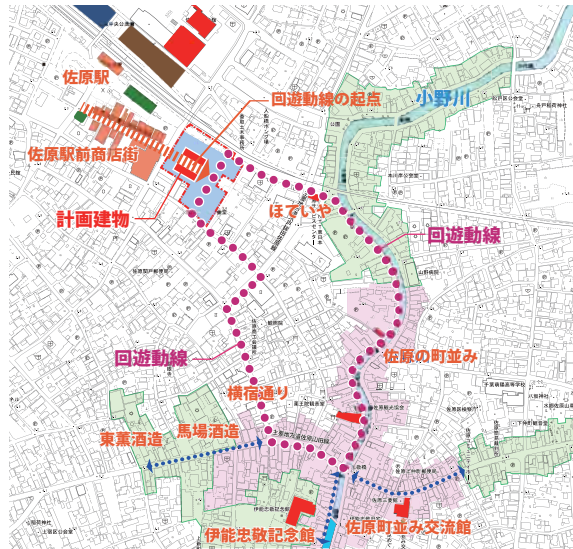


■ 配置計画図 S=1/600

IV. 外構計画

1. 観光機能の強化、まち全体の回遊性の向上

・まち全体の動線を整理し、回遊性を向上させる外構計画を提案します。



2. 外構計画の考え方

～町並みへと導く4つの庭と通り

- ・4つの庭を観光客動線の各分岐点に配置し、通りで繋ぐことで、佐原駅・商店街から施設、そして小野川周辺へと導く町並み観光の起点となる計画とします。
- ・西側道路からの利用者を迎え入れる「表の庭（多目的広場）」を設けます。
- ・（仮称）佐原通りを抜けた先に、観光情報を発信する「中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）」を設けます。
- ・南・北側道路との接点に「角の庭」を整備し、観光客の視線を誘導します。

3. 植栽計画の考え方

- ・「中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）」及び「角の庭」にはアイキャッチとなるシンボルツリー（イロハモミジ）を配置します。
- ・植栽選定は虫害に強く、メンテナンスが容易な、常緑樹（シラカシ、ソヨゴ、ヤマモモ、イヌマキ等）を中心に選定します。

4. 雨水排水計画の考え方

- ・雨水排水管には浸透管を採用し、雨水流出抑制に配慮した計画とします。

表の庭（多目的広場）

- ・計画敷地前面にオープンカフェから、朝市など多用途に利用可能な「表の庭（多目的広場）」を設けます。
- ・駅側のエントランス広場として開放的な休憩スペースに利用可能です。
- ・広場は、耐荷重性に優れた舗装材を選定し、多用途な利用に配慮します。



■表の庭（多目的広場）イメージ

中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）

- ・東玄関前の「中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）」は、車いす利用者用駐車場や車寄せから雨に濡れないルートとして整備します。
- ・展示パネルを配置し、観光情報を発信するとともに、駐車場への視線を遮ります。



■中の庭（（仮称）小野川ギャラリー）イメージ

緑の小道

- ・施設から佐原の町並みへと誘導する遊歩道には、県木のイヌマキ等の生垣を配置し、緑豊かな心地よい歩行者空間を計画します。



■生垣イメージ

角の庭（北・南）

- ・「緑の小道」と南北の道路との接点に「角の庭」を設けます。佐原の町並みへ誘導するアイキャッチとなるとともに、施設へアクセスする際にはエントランス広場としても機能し、利用者を敷地内にやさしく誘導します。



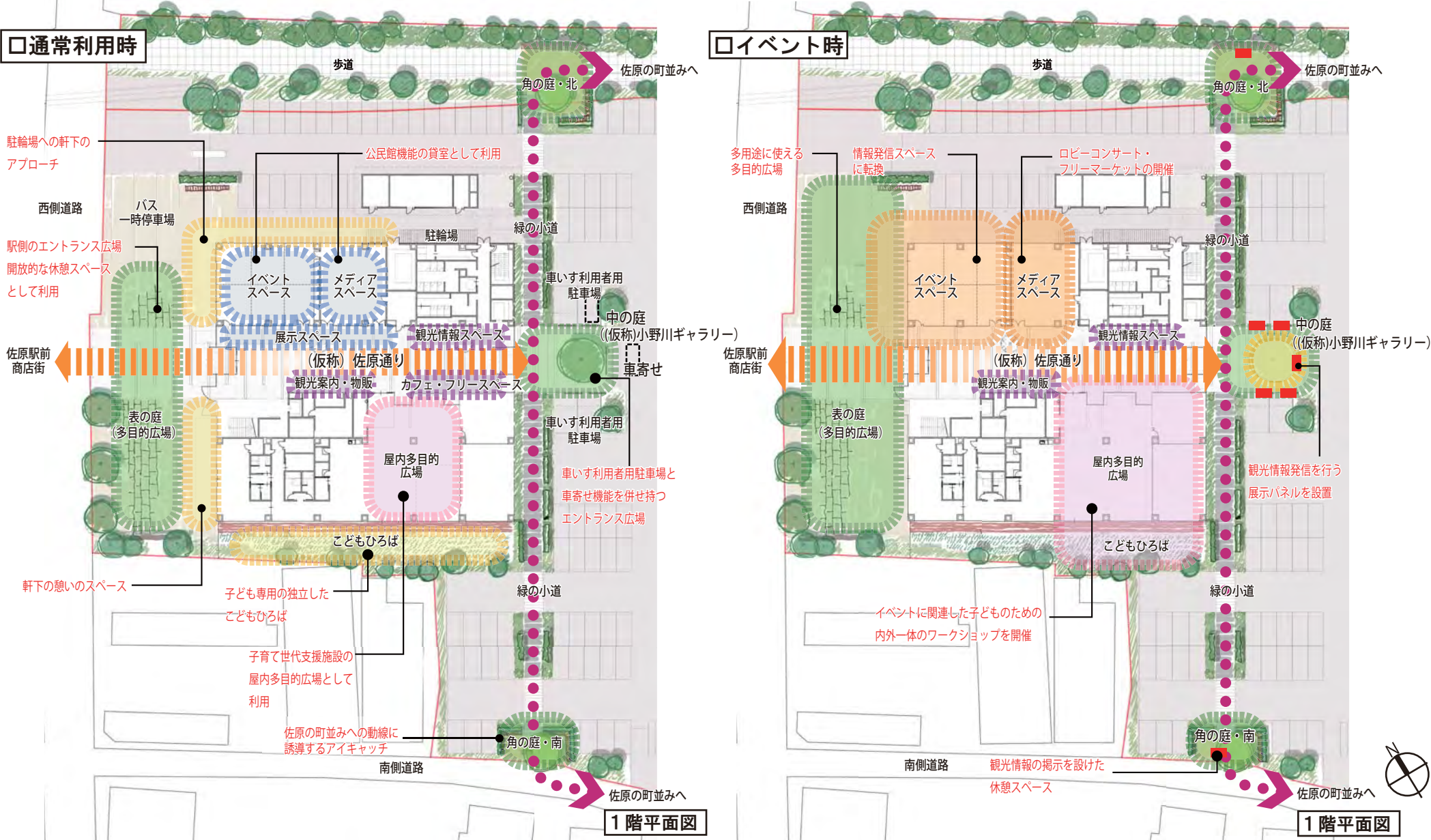
■角の庭イメージ

こどもひろば

- ・子育て世代支援施設に隣接して「こどもひろば」を設けます。子ども達が気兼ねなく遊べる専用の広場です。



■こどもひろばイメージ



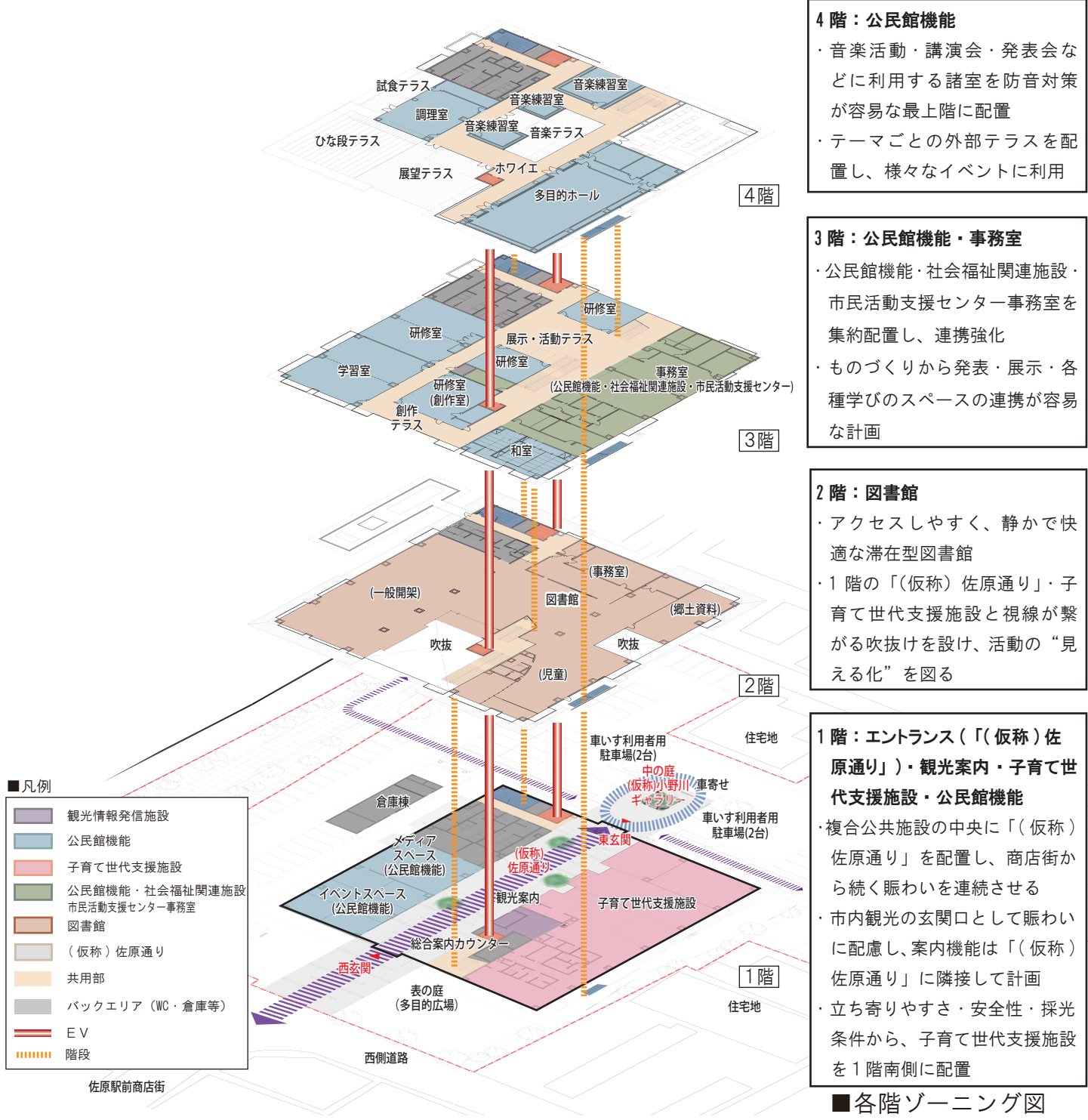
V. 平面計画

1. ゾーニング計画

- ・施設毎にまとまった断面構成とし、施設固有の機能の充実と独立性を確保、維持管理も容易な計画とします。
- ・諸室は西日を避けた南北面に配置し、自然通風・自然採光を取り入れた快適な環境を確保します。

2. 動線計画

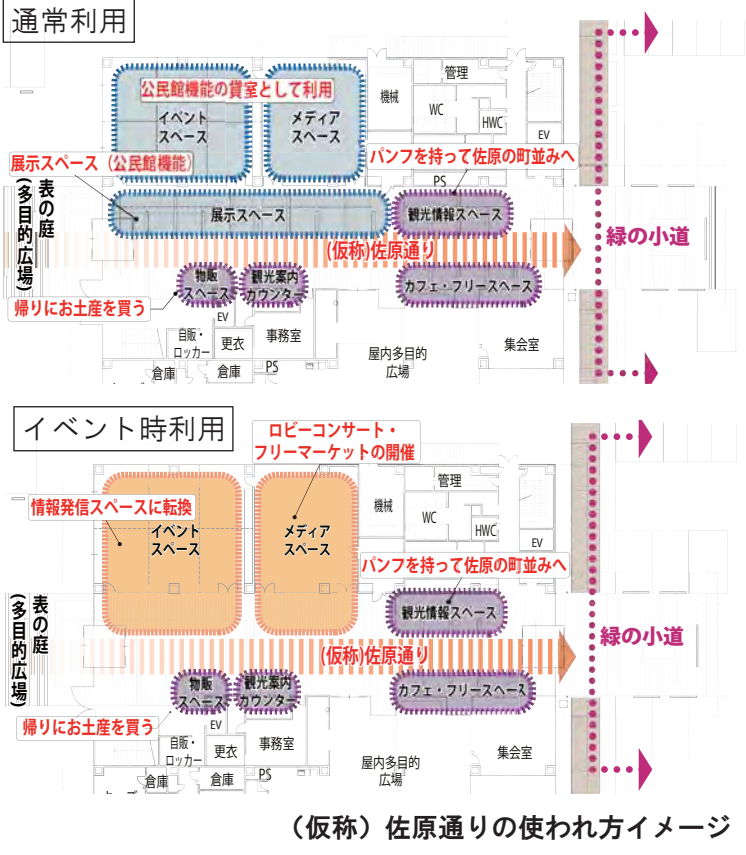
- ・階段・水廻りなどのコアと一般諸室を南北面に配置し、建物中央を主動線及び共用部としたシンプルな平面計画とすることにより、利用者にわかりやすく、移動距離の短い動線計画とします。
- ・「（仮称）佐原通り」の2層吹抜けに面して、4階まで繋がるオープンな階段（大階段）を設けます。総合案内カウンターから目的の窓口へとルートがわかりやすく、案内しやすい計画とします。



3. 各施設計画

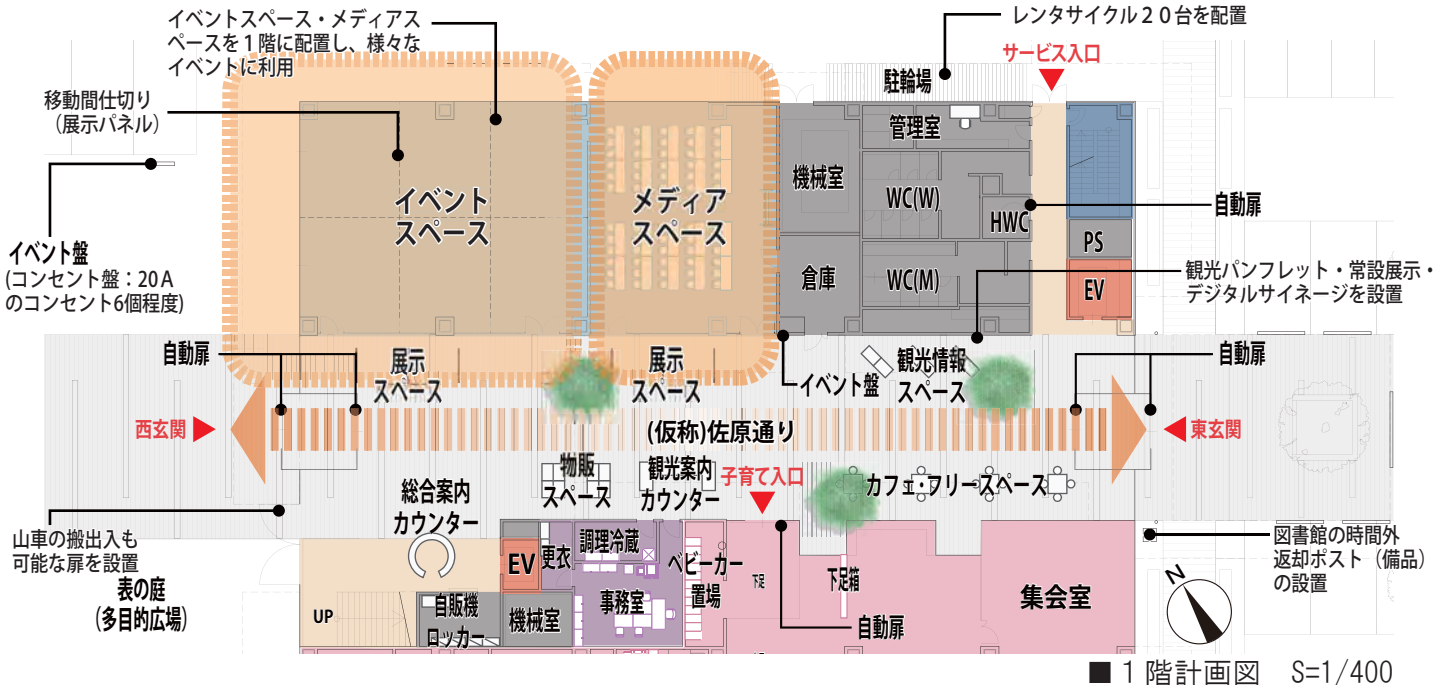
（1）エントランスホール：「（仮称）佐原通り」～観光機能とまち全体の回遊性の向上

- ・観光バスや鉄道からのアクセスにおいて、商店街を抜けた立地を活かし、1階の施設中央に通りを設けることで、この施設を町並み観光の起点として位置づけます。
- ・「（仮称）佐原通り」は、観光案内と展示スペースが点在した通りとして機能し、イベント時には、メディアスペースやイベントスペースと一体的に利用することにより、観光情報発信やロビーコンサート・フリーマーケットまで多目的に利用可能な計画とします。
- ・「（仮称）佐原通り」及び「表の庭（多目的広場）」に照明・電源用のイベント盤（コンセント盤：20Aのコンセント6個程度）を設置し、様々なイベントに対応可能な計画とします。
- ・施設の1～4階を繋ぐ大階段付近に総合案内を設置することで施設案内しやすい計画とします。
- ・自販機・施設全体の共用ロッカーを総合案内に近接して配置します。



（2）観光情報発信施設

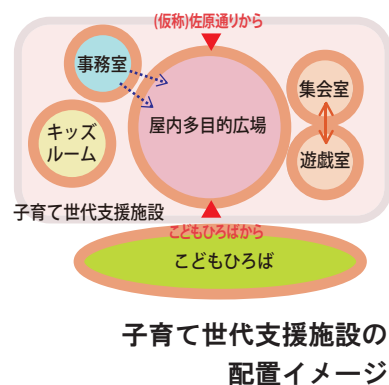
- ・1階「（仮称）佐原通り」に観光案内施設を設けることで利用者が立ち寄りやすい計画とします。
- ・軽飲食程度のカフェや香取市の名産などの物販スペースを設けます。
- ・子育て世代支援施設を見渡せる位置にカフェ・フリースペースを設けることで、子どもを見ながらの飲食が可能です。
- ・香取市の観光情報パンフレット置場・常設の展示スペース・デジタルサイネージを設け、市の情報等を発信します。
- ・駐輪場に20台程度のレンタサイクル置場を設けます。



V. 平面計画

(3) 子育て世代支援施設

- ・ベビーカーの利用、災害時の避難のしやすさ、採光条件に配慮し、1階南側に配置します。
- ・子連れでも安全で立ち寄りやすく、明るく開放的な計画とします。
- ・屋内多目的広場に面して明るく安全な子ども専用の広場（こどもひろば）を南側に設置します。
- ・「（仮称）佐原通り」に面して施設の出入口を設け、下足入・ベビーカー置場を隣接して配置します。
- ・キッズルームに隣接して授乳室・幼児用トイレを設置し、キッズルーム・廊下双方からのアクセスを可能にすることで、利便性の良い計画とします。



(4) 図書館

■図書館計画の考え方

香取市読書施設の中核館として、滞在型図書館の実現

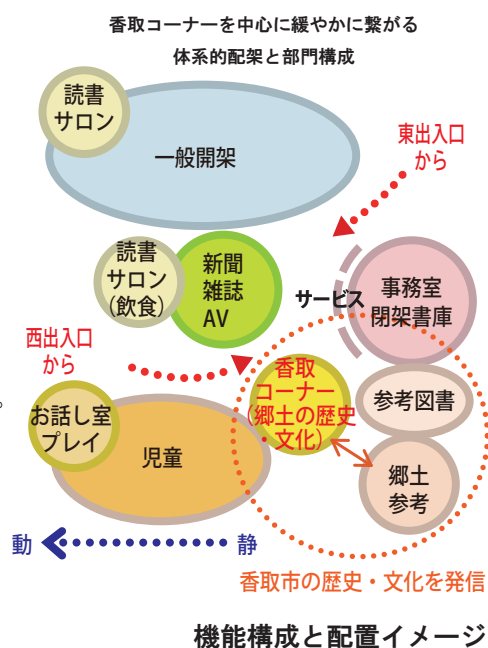
- ・充実した資料・設備・施設を確保し、気分や目的によって選べる様々な形態・環境の閲覧スペースを設けます。
- ・一般開架（一般書・くらし・文庫・新書・参考図書）：約 67,000 冊
児童（ものがたり・ちしき・えほん・かみしばい）：約 20,000 冊
閉架・郷土資料：約 50,000 冊
の規模の充実した資料を持つ図書館とします。
- ・閲覧席約 60 席を確保します。

郷土の歴史や文化を発信する

- ・香取市の歴史や文化に特化したスペースを設置し、市内外に発信します。

子育てを支援する図書館づくり

- ・年齢ごとのゾーニングにより、音環境に配慮した計画とします。
- ・低年齢児ゾーンでは、親子で気兼ねなく利用できる環境をつくります。
- ・高年齢児ゾーンでは、吹抜けを介して1階子育て世代支援施設と繋がり一体感のある閲覧・学習スペースをつくります。



■開架室・各室計画

2階エントランスを入ってすぐの印象を楽しく

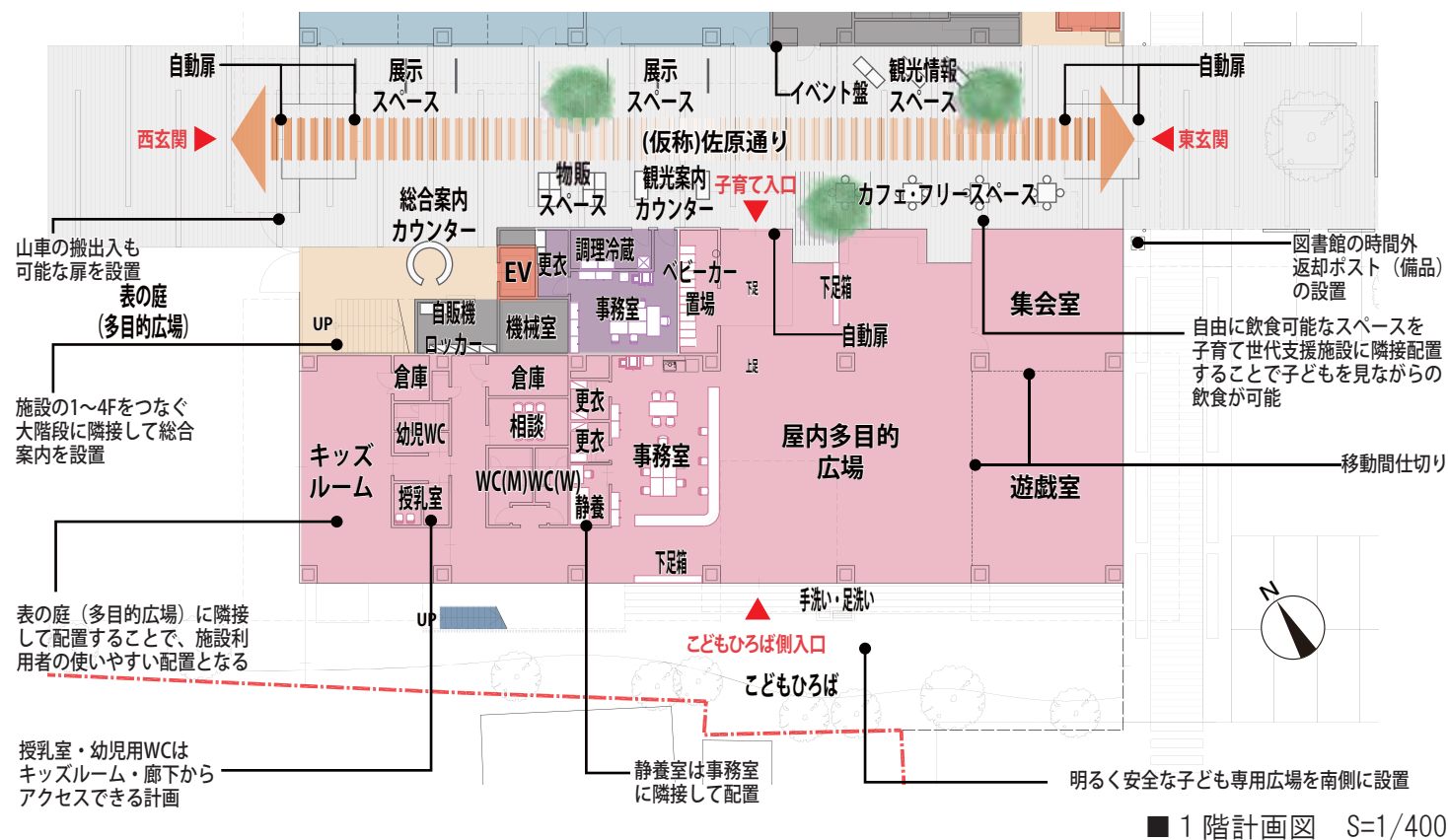
- ・東・西出入口の両方からアクセスしやすい位置に、お勧め本の展示や香取市の歴史や文化を発信する「香取コーナー」を計画します。
- ・「香取コーナー」に近接して「新聞・雑誌・AV コーナー」を配置します。雑誌や新聞の表紙をみせる雑誌架を設置し、利用者が気軽に訪れやすい雰囲気をつくります。

児童開架エリア

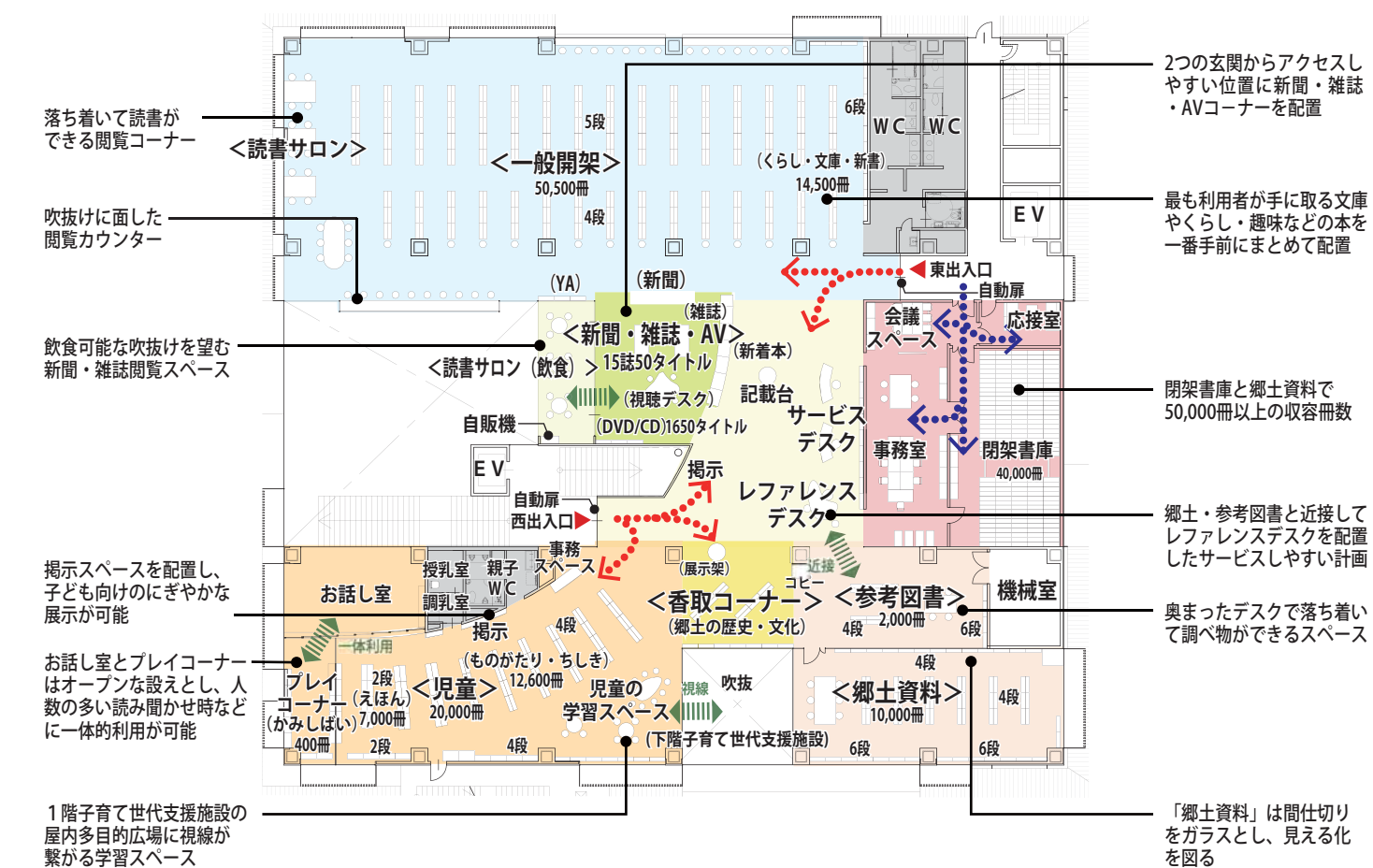
- ・一般書架から一番遠い児童ゾーンの奥に低年齢児の利用が多い「えほん」「かみしばい」を配置し、手前に子どもが読み物・学習を行う「ものがたり」「ちしき」を設けることで、音環境に配慮した計画とします。「えほん」「かみしばい」にはお話し室・プレイコーナーを併設することで低年齢児が楽しく本を広げて読めるスペースを計画します。また、親子トイレ・授乳室を設置し、子育て世代にやさしい計画とします。

郷土資料・参考図書

- ・「香取コーナー」に近接して「郷土資料」「参考図書」を配置することで、郷土資料の展示が行いやすい計画とします。
- ・郷土資料は間仕切りをガラスとし見える化を図るとともに、レファレンスカウンターに近接して配置し、セキュリティに配慮した計画とします。



■ 1階計画図 S=1/400



■ 2階計画図 S=1/400

VI. 立面計画

■立面計画のテーマ

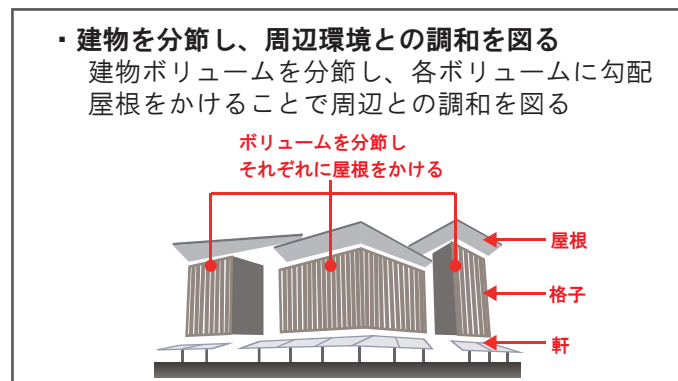
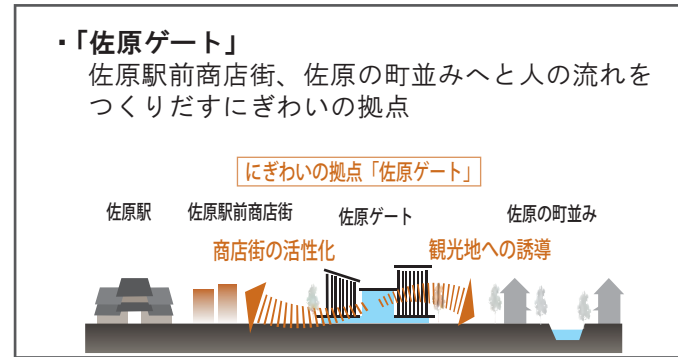
- ①まちの賑わいを創出する施設として、香取市の誇りとなるシンボル性を確保する
- ②「佐原らしさ」を取り入れた景観づくりを目指す
- ③周辺環境との調和を図る



「粋（いき）、活（い）きとした景」

混然としながらも一体となって、落ち着いた雰囲気醸し出す佐原の町並み。

まちの文脈を彷彿とさせる“粋”と、市民活動の熱気が溢れだす“活き”が重なり合う、粋（いき）活（い）きとしたまちを象徴する顔づくり。



佐原らしいファサードと色彩を抽出



北西側外観イメージ

VII. 環境配慮・防災計画

1. 環境配慮計画

（１）基準の設定について

- ・環境負荷を抑えコストバランスに配慮し、機械的な手法によらず建築的に自然エネルギーを活用した環境設計とします。
- ・費用対効果を検証の上、適切な対策を行うことで、省エネ・再エネを行わない建物と比較し、一次エネルギー消費約 30% 削減を目指します。

（２）省エネルギーについて

①自然エネルギーの活用

- ・外周部＋施設中央の階段吹抜けの採光・通風により、省エネで快適な環境をつくります。
- ・各階換気窓は手動タイプを基本とし、共用部は施設管理者、専有部は各施設の管理者がそれぞれ開閉を管理する計画とします。
- ・格子をモチーフとした縦ルーバーにより西日を遮蔽します。
- ・外壁は高断熱化、ガラスは高断熱ガラスを用い、断熱性を高めます。

②高効率設備システムの導入

■LED照明

- ・照明器具については省エネルギーなLED照明を導入します。

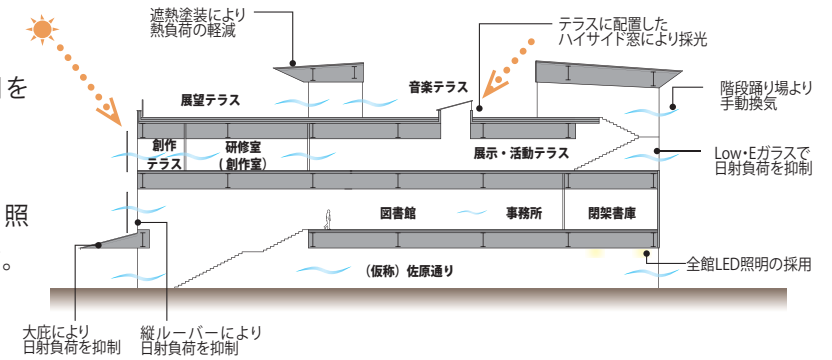
■人感センサー

- ・階段・倉庫・トイレには、人の所在を感知して照明を点灯・消灯する人感センサーを導入します。

（３）創エネルギーについて

■太陽光発電

- ・太陽光発電パネルは、空調室外機スペース・周辺状況を考慮し、発電効率の良い多目的ホール屋上に金属屋根置型で設置します。設置容量は 20kw を確保し、災害時における「（仮称）佐原通り」に使用される、照明・コンセント等（動力を除く）の消費電力の 1/3 をまかないます。
- ・創エネルギーの“見える化”を図るため「（仮称）佐原通り」に設置した表示ディスプレイには、太陽光発電の発電量を掲示します。



2. 防災計画

（１）災害時の考え方

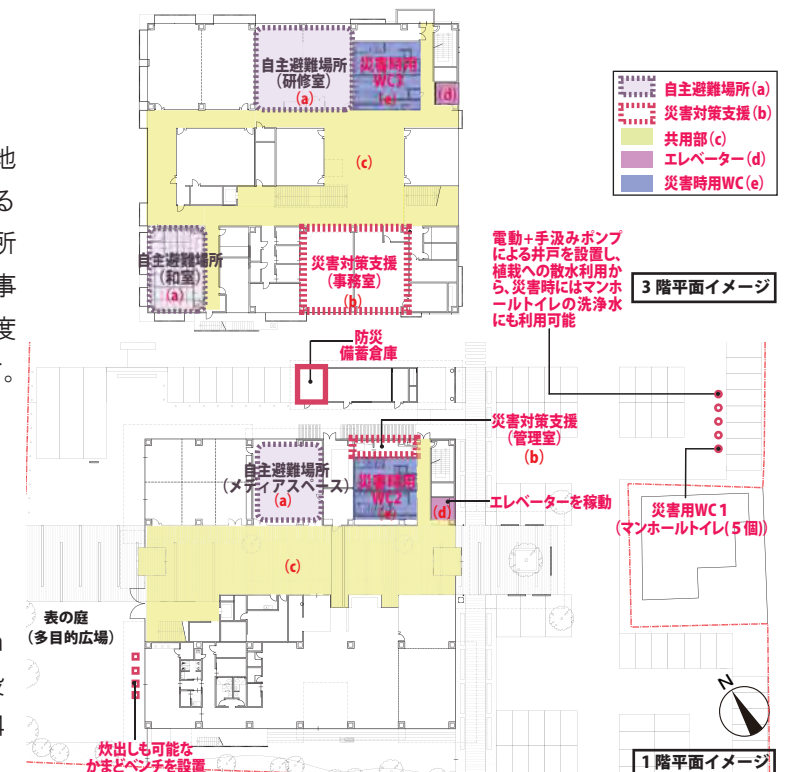
- ・大規模災害時には、近接する市民体育館が当該地区の指定避難所として指定（利根川の氾濫による洪水被害の時は浸水想定区域内となるため避難所とはならない）されており、本施設は台風など事前に荒天が予想される場合に、一時的な 40 人程度の小規模自主避難場所（避難所）として活用します。

（２）避難所の設定

- ・自主避難場所： 1 階メディアスペース
3 階和室・研修室
- ・災害対策支援： 3 階事務室

（３）万が一に備える施設計画

- ・ハザードマップによると、計画敷地は、2 ～ 5m の浸水地域に指定されているため、高圧受変電設備・発電機は別棟倉庫棟上、空調室外機等は 4 階及び 4 階屋上に設置します。



VIII. 設備計画

1. 電気設備計画

(1) 電気設備計画

- ・ 照明器具は省エネ・省力化・経済性及びメンテナンス性に配慮して、積極的に LED 照明の採用を図ります。
- ・ また、照明制御方式は省エネ性に配慮し、人感センサー制御などを採用します。
- ・ 受変電設備・非常用発電機は水害、及び地震対策上の安全性に配慮し、倉庫屋上に設置します。
- ・ 非常用発電機の災害時連続運転可能時間は 48 時間とし、災害対策上必要な諸室に供給可能な計画とします。

(2) 通信・情報設備計画

- ・公民館機能・図書館等それぞれの用途ごとに必要なネットワーク系統を構築可能な構内情報通信網設備を計画します。
- ・1階「(仮称)佐原通り」・総合案内・トイレに視覚障がい者用音声ガイドシステムを設置し、音声にて誘導をサポートする計画です。

2. 機械設備計画

(1) 給水設備

- ・水道本管より引込み屋外設置の受水槽に貯水後、加圧給水ポンプにて給水を行います。
- ・雨水再利用による雑用水の供給は行わない計画とします。

(2) 給湯設備

- ・給湯方式は局所給湯方式とし、貯湯式電気温水器により供給します。
- ・4階調理室系統は大量使用が想定されるため、業務用エコキュートによる給湯を行います。
- ・1階キッズルーム隣接授乳室系統はキッズルームでの沐浴体験対応のため、業務用エコキュートによる給湯を行います。

(3) 排水設備

- ・敷地内は汚水と雨水を分流とし、雨水をトラップ柵を介し最終柵にて汚水と合流させた後、道路公共下水道へ放流します。
- ・雨水については雨水流出抑制のため浸透管を採用し、オーバーフロー分は公共下水道へ直接放流します。

(4) 衛生器具設備

- ・原則として節水型とし、誰もが使用しやすい器具を採用します。

(5) 消火設備

- ・本計画建物は、消防法施行令別表第-(16)項イとしてスプリンクラー設備・屋内消火栓設備・消火器を計画します。

(6) 災害用便所

- ・外構に公共下水道接続型貯留式マンホールトイレを設置します。

(7) 冷暖房設備

- ・ 室形状や用途によってエアハンドリングユニット、外調機＋パッケージエアコン、全熱交換器＋パッケージエアコンより空調方式を選定します。
- ・ パッケージエアコンは使用時間帯の違いや利用頻度等を考慮し、個別ヒートポンプパッケージ方式とし、熱源方式は電気式とします。

(8) 換氣設備

- ・省エネルギーを考慮し、全熱交換器型換気扇を採用することにより熱回収を行います。

(9) 自動制御設備

- ・ 警報や状態監視を取り込む集中管理方式とし、省エネルギーかつ運転管理が容易となるような自動制御システムとします。

IX. 工事費概算

(諸経費込み・消費税込(8%))(単位:千円)

工事項目	金額	備考
①複合公共施設建設工事費	3,898,000 千円	
②外構整備工事費	321,000 千円	
③解体工事費	262,000 千円	

※別途費用について

＜建築＞

・カーテン・ブラインド・スクリーン・ホワイトボード・掲示板

・消火器

・テーブル・椅子等の什器(固定されていないもの)

・図書館自動貸出機・BDS(ブックディテクションシステム:セキュリティシステム)・OPAC(オパック:利用者には供されるオンライン蔵書目録)

・子育て世代支援施設遊具

＜電気＞

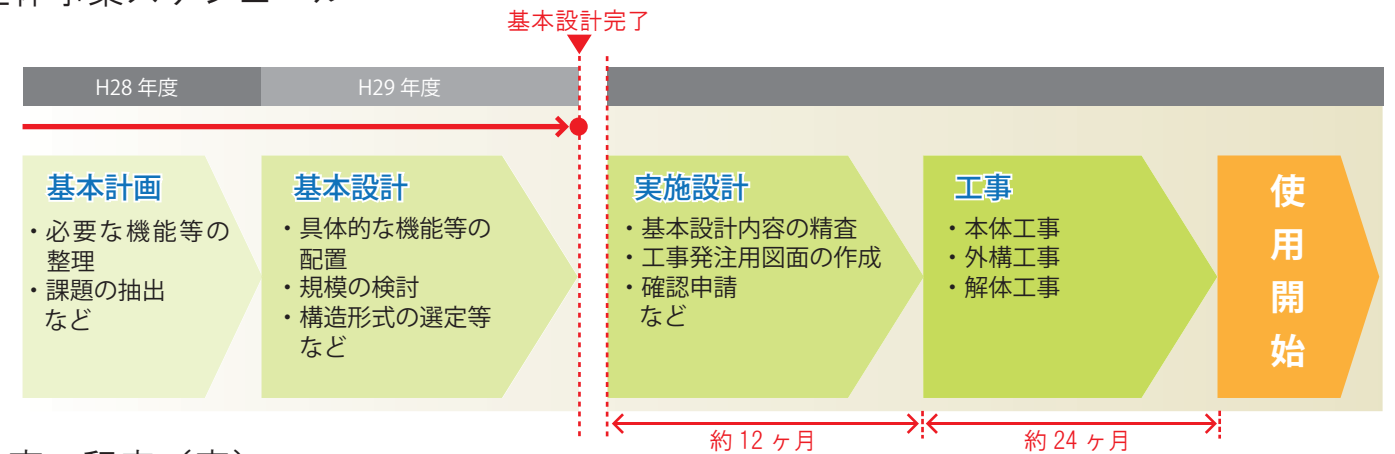
・特殊LAN工事(図書館等)

・機械警備機器(防犯カメラ含む)

・電話交換機・電話機

・電柱移設負担金

X. 全体事業スケジュール



XI. 工事工程表 (案)

—— クリティカルパス(根幹となる工程)を示す

